

2023年、ベトナムは日本関連の話題で大いに盛り上がった1年となった。本年は日越外交関係樹立50周年の記念すべき年であり、ベトナム・日本両国において記念イベントや式典などが数多く開催されるとともに、9月には秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご訪越、50周年記念新作オペラ「アオノ姫」のハノイでの世界初演と最大の盛り上がりを見せた。

この追い風に乗れ、訪日ベトナム人数は1月から10月までの間に49万人となり2019年同期比

JNTOハノイ事務所

吉田 憲司 所長

<103>

ベトナム市場

1.6%となっている。この伸び率は、JNTO重点市場において5番目の伸び率となっており、このペースで推移すれば、今年の訪日ベトナム人数は50万人を超え過去最高となる見込みである。まさに50周年の祝賀の年にふさわしい記録と

なる。外部環境に目を向ければ、ベトナム統計総局が

発表した今年の1月から9月までのGDP成長率は4.2%となり、ベトナム政府が年初に掲げた通年目標6.5%の達成は難しいとみられるものの、依然として高い数値である。また、本年4月には人口が1億人を超え、世界で最も人口が多い国のトップ15に仲間入りを果たした。

旅行業界では、日本と

日越50周年でプロモーション

JNTOハノイ事務所は、2022年11月より「日越外交関係樹立50周年を契機とした訪日プロモーション」を開始し2023年末まで実施する予定である。本プロモーションでは、キャンペーン・アンバサダーにベトナムで国民的人気を有するNhi Thang

（東京・箱根・富士・京都・大阪）であり、日本を象徴するような場所写真を撮ることが訪日旅行の目的の一つにもなっているが、JNTOが行った調査ではベトナム人の地方訪問意向は比較的高いことが確認されている。ベトナム市場に力を入れる地方自治体などとの連携や旅行会社に対する啓蒙活動などを通じて、日本の地方の魅力をこれまで以上にベトナム



ニータンファミリーを迎えた50周年プロモーションイベント

ベトナム間の国際線便数は2019年に比べ約120%と高い回復率を記録するが（JNTOハノイ事務所調べ）、これに加え日本の地方自治体（福島県、和歌山県など）とベトナムの航空会社が連携したチャーター便の運航も活発であり、

2024年春のシーズンには多くのチャーター便運航が予定されている。JNTOハノイ事務所は、2022年11月より「日越外交関係樹立50周年を契機とした訪日プロモーション」を開始し2023年末まで実施する予定である。本プロモーションでは、キャンペーン・アンバサダーにベトナムで国民的人気を有するNhi Thang

（東京・箱根・富士・京都・大阪）であり、日本を象徴するような場所写真を撮ることが訪日旅行の目的の一つにもなっているが、JNTOが行った調査ではベトナム人の地方訪問意向は比較的高いことが確認されている。ベトナム市場に力を入れる地方自治体などとの連携や旅行会社に対する啓蒙活動などを通じて、日本の地方の魅力をこれまで以上にベトナム

（月一回掲載）